

使用者の声

「殺線虫剤 ネマトリンエース粒剤」の使用感について、インタビュー！
生産者様の声を紹介します。



石原

殺線虫剤

ネマトリンエース
粒剤

®は登録商標

【だいこん】 鹿児島県 小迫さん

線虫密度の高い圃場でも効果あり。 高品質なだいこん生産のために、 今後も使い続けます。

線虫密度が確実に減少。

令和5年産のだいこんは会心の出来栄に。

鹿児島県大隅半島に構える大崎農園は、だいこんを120ha栽培する農業生産法人です。生産統括部長を務める小迫さんは、この広大な圃場の栽培管理を行っています。

「圃場によっては線虫密度の高い圃場もあるので、防除には気を遣っています」と話す小迫さん。「商品として一番好まれるのは白くて長くてツヤのあるだいこんですが、ネグサレセンチュウの加害を受けると黒い斑点ができ、ネコブセンチュウに加害されるとだいこんがデコボコになるので外観が悪くなってしまいます。うちは青果用のだいこんをメインとしているため、線虫被害に遭うと歩留まり率が落ちてしまいます」。

今年収穫しただいこんは、努力の甲斐があって過去最高の出来だったそうです。ネマトリンエース粒剤についても「線虫被害はほぼ見られなかった」と効果を実感されている様子。また、「線虫密度の高かった圃場でも、線虫の数が減ってきているのは確実に」と断言します。

天候に左右される露地栽培において、
播種の直前に処理できるのは便利。

大崎農園では、播種の直前にネマトリンエース粒剤が使われるそうで、「露地栽培は天候に左右されるため、薬剤を処理するタイミングが



*剣は合成です。

難しいですが、播種直前でも処理できるのは便利」と使い勝手の良さに太鼓判を押します。「糖度の高いおいしいだいこんを作るためにも、これからもネマトリンエース粒剤を使って線虫防除を欠かさず続けたい」と話してくれました。

小迫さんは以前、別の農業法人でだいこん作りをされていたが、ねぎの栽培がしくて、当時ねぎがメインだった大崎農園に来たそうです。その後、こちらでも徐々にだいこんの栽培が増えていき「だいこんから逃げられない運命なのかもしれない」と笑います。今後の目標について、「大崎農園では、だいこんにおいてグローバルGAP認証を取得しています。海外輸出もしているの、日本国内はもちろん世界中の人たちにもおいしいだいこんを食べてほしいです」と話す横顔から、自分達の作るだいこんへの深い愛情が感じられました。

※取材時(2023年10月)における個人の感想をもとに作成しています。

●使用前にラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。